



# 吉野川 ラムネット通信

Vol. 4 2014.11.1 発行

## 吉野川をラムサール条約湿地に登録しよう！！

藤永知子

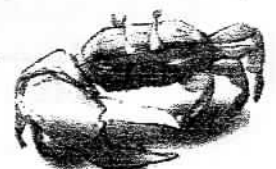
2010年9月に吉野川河口汽水域は、ラムサール条約潜在候補地172カ所の一つに選ばれました。そのときの環境省内の検討会で、吉野川はどのような評価をされたのでしょうか？

- ・環境省発表資料から潜在候補地の対象範囲は、吉野川河口汽水域（徳島市～藍住町～石井町 河口から第十堰までの14.5キロが範囲）

### 国際基準（選定の基準）（1～9）

- <基準1> 湿地のタイプとしては、河口域・河口干潟 四国地区の代表的な河川であり汽水域と塩生湿地、海浜植物、河口景観が特徴的である。環境省による「重要湿地500」に選定されている。
- <基準2> 絶滅危惧種（Ⅰ・Ⅱ類）が多い。底生生物をはじめ、昆虫、魚類、植物、鳥類などに及ぶ、ズグロカモメの0.1%基準クリア（吉野川下流域）
- <基準3> 有明海が備え持つ湾奥部の大型干潟の特徴を河口干潟の形態で持っており、そのため、シオマネキの生息数は、有明海以外では、随一を誇る。砂質から泥質まで多様な環境が、河口域に残されており、種の多様性が高い。貝類のヒロクチカノコ、ヨシダカワザンリョウ、クロイロコミミガイや甲殻類のシオマネキ、ハクセンシオマネキ、フタハピンなどが生息する。ハンミョウ類の重要な生息地である。
- <基準8> 広大な汽水域は、吉野川水系の魚類194種のうち144種を支え、アユ、アユカケ、サツマキスなど、多種多様な魚類の重要な生育場所である。

このように吉野川河口汽水域は、国際基準を満たし、自然の豊かさや高い生物多様性が、確保されています。また昔から賢明な利用を行ってきた吉野川こそラムサール条約に最もふさわしいのです。基準を満たした吉野川に登録には何が必要か？地元自治体の登録への賛意です。このことを後押しするのは、地元徳島の皆さんです。どうか一緒に「この吉野川をラムサールに」して世界から徳島の吉野川を見に来てもらいましょう！それこそが地域の活性化にもつながるはずですよ。

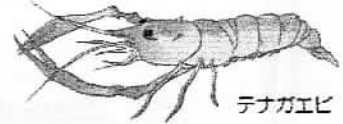


## 「吉野川とのつながりは胃袋を通る」

塩崎健太 (NPO 法人川塾代表)

うなぎ、なまず、すずき、きびれ、すっぽん、もくずがに、どてほり、しじみ、すじあおのり・・・これらは、私が吉野川と出会ってからの8年間で獲って若しくは頂いて食べた吉野川の恵みの一部です。なかでも印象的なのは、てながえびです。なぜなら、私が初めて吉野川とつながりをもったのは「てながえび獲り」だったからです。

私は、兵庫県の工業地帯の生まれで、子どもの頃から「自分で生き物を獲って食べる」という経験をあまりしたことがありませんでした。なので、初めててながえびを獲って食べた時は衝撃的でした。まず、当時住んでいた徳島市内の自宅から車で数十分のところになんかたくさんのいきものがあるということ。そしてそれを獲るといふ行為(遊び)がとてもエキサイティングで時間を忘れてしまうくらい楽しかったこと。そして、獲った獲物が泥抜き等をほとんどしなくても抜群に美味しいこと。「おとこを虜にするには、まず胃袋をつかめ!」といいますが、私はこの「てながえび獲り」で吉野川にがっちり胃袋をつかまれてしまいました。



現在私は、NPO 法人川塾という団体で小中学生を対象に「吉野川で遊び、吉野川と自分たちの暮らしのつながりを感じる」事をテーマとしたイベントを行っています。そのなかでも、子どもたちに「吉野川で自分で生き物を獲って、自分で調理して、食べる」という事を経験してもらっています。その事で子どもたちもやはり、吉野川にがっちり胃袋をつかまれるのです。

私が吉野川に胃袋をつかまれてから8年が経ちます。毎年吉野川で遊び、潜り、生き物を獲って食べています。でも、この8年という短期間でも生き物が減ったなあと感じます。私も川塾を卒業した子どもたちも、吉野川とは胃袋を通じてつながっています。これからもこのつながりを大切に、もっと多くの人に「吉野川と自分の暮らしのつながり」を感じてほしいと思っています。だから、いつまでも魅力的で美味しい吉野川であってほしいと心から願い、その思いを実現するためにできる事から無理なく行動してきたいです。

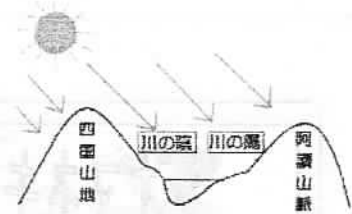
「みなさんは、どんな吉野川であってほしいですか？」

～川と人をつなぐ～ 川塾は、吉野川をメインフィールドとし、川遊びを通して、子供たちに川と共に生きる知恵や技術を体感してもらい、“川と人をつなぐ”きっかけ作りができればと考えています。



<写真:NPO 法人 川塾 HP より>

# 山の北は山の陰 山の南は山の陽 川の北は川の陽 川の南は川の陰



吉野川は、池田でほぼ直角に流下し、だんだんと蛇行の幅を広げ、徳島平野を形成し、鳴門と徳島の間で海へと注ぐ。

川の北は、阿波と讃岐の分水嶺である阿讃山脈が、走り、その南麓がほぼ中央構造線である。吉野川はそれに沿って流れる。阿讃山脈からの川は、多く扇状地を成し、「原」の名が多い。

(拝原・柿原・鍛冶屋原)



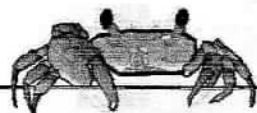
川の南は、四国山地で、山塊が大きく急峻なため、谷が深く大きく井内谷川・加茂谷川・半田川・貞光川・穴吹川・川田川が、吉野川に流入してくる。各々の合流地点には山からの経済活動が交わり、市場を成し、町が形成された。(谷口集落・溪口集落)

井内谷川の出口の辻(地名)は、真に和製漢字「辻」である。道の交点、十字路を表す字である。

川田川の谷口集落である山川町では、古代祭祀を司る忌部氏の一族が住み、山崎の津には市が立っていた。現在でも大嘗祭に麻布が献上される。この地は、現在、吉野川市となっているが、最近の町村合併の前は、由緒ある「麻植郡」であった。麻の植う地であり、阿波の国の発生の地と言えよう。

阿波の北方(きたがた)「粟(阿波)の国」は、南方(みなみがた)「長の国」とは違い、吉野川によって成されていたと知るのである。

河野真理



おいしい吉野川



暑い暑い夏、土用の丑の日には鯉。元気の出る食べ物です。

お店に並ぶのは国産養殖鯉と中国産の養殖鯉。

みんなの憧れ、天然鯉が吉野川にいます。

まとまった雨が降り、水が出た後には吉野川に鯉釣りに出かけましょう。

しかしそんなに簡単には釣れません。

1日かかって釣れないなんてこともあるんです。

粘りに粘ってやった！釣れました。

特にアブラののった「あおばい」と呼ばれる背中の青い大物！(釣ったのは父ですよ。)

自宅で捌いて蒲焼き、うなぎ丼。味はご想像ください。文字では伝えられません。

おいしい吉野川 ご馳走さまでした。

西野 幸

# シオマネキの絵・吉野川河口の写真 作品募集

2015年4月25日[土]・26日[日]  
吉野川汽水域を子どもたちの未来へとつなげる  
吉野川ラムサール展

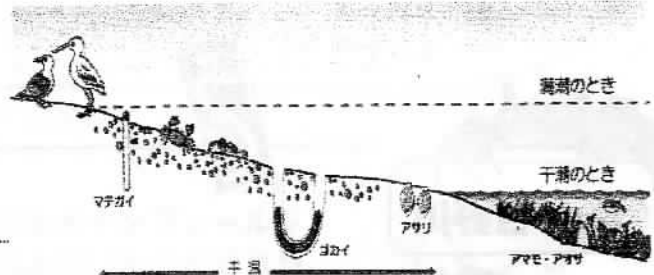


絵：A4 (29.7×210 cm)の大きさの用紙にお書きください。  
写真：2L (12.7×17.8 cm)以上の大きさの写真または写真データでお送り下さい。  
送り先：〒770-0944 南昭和町 3-19-1 とくしま自然観察の会係り  
e-mail madoguchi@shiomanekei.net  
問合せ：tel/fax 088-623-6783  
会場：徳島市シビックセンター・ギャラリーB (徳島駅前アミコビル)  
主催：とくしま自然観察の会

## 干潟のQ&A 干潟ってどんなところ？

一般に「潮が満ちているときは水面下にあり、潮が引くと干上がる、砂や泥でできた平坦な地形」のことを「干潟」といいます。そこには、干潟独特の豊かな生態系が形成されていて、生き物にとっても私たち人間にとっても大切な機能をもっています。

- ①生き物の棲む場所としてのはたらき (生物生息機能)
- ②水をきれいにするはたらき (水質浄化機能)
- ③生き物が生まれ育つ場としてのはたらき (生物生産機能)
- ④人が水に親しむ場としてのはたらき (親水機能)



### 《編集後記》

吉野川河口で見た今年の中秋の名月はとてもきれいだったと聞いて、10月のお月見をしようと、ラムネットの運営委員会のメンバーが干潟の観察会近くの土手に集合。この日(10/8)は3年ぶりの皆既月食ということで、赤銅色のまん丸い月と、再び白い満月へと戻っていく様子を存分に楽しむことができました。来年4月4日も皆既月食が観測できるそうです。今度は皆さんと一緒に楽しみたいですね♪ (M)

☆会員募集中☆ 会費：(一口)1000円

♪問い合わせ&お申し込み 藤永まで 090-7268-9448

♪振り込み先：ゆうちょ銀行 01640-6-52973  
吉野川ラムサールネットワーク

### 吉野川ラムサールネットワーク

事務局：藤永知子

TEL: 090-7268-9448

Email: taikazann@hotmail.com

HP: http://www.yrn.jp

